

9月15日(金) 研究発表第3室(713)

大学生の「仮定法」に関する文法能力

College Students' Grammatical Competence for "Subjunctive"

東北学院大学 高田 諭

仮定法 「現実」の認識力 「時」の認識力 文脈による文法的判断 法助動詞

- I. 研究の目的 大学生が仮定法に関して現在持っている文法能力を明かにし、問題点を発見し、その解決の道を探る。
- II. 方法 英文科の学生のうちで専門科目「英文法」を履修している者90名にたいし、「法」に関し2コマの講義をした後、勝又永朗著、「大学英文法」の「法」に関する練習問題50題を2週間の期間を与えて解答させ、レポートの形式で提出させた。問題のうち特に仮定法と関係の深いもの20題を選び、解答状況を調べその結果を数的に明かにするとともに、誤答を分析することによって仮定法に関して学生が示している困難点を明かにする。
- III. 調査結果
 1. 得点分析 解答者の得点の平均は68.8、得点分布をみると80以上が17名、70台が19名、60台が30名、60未満が24名となっている。上位95点、100点はなく、60未満の人数も多い事はこれらの問題がレポート形式であり、かつ2週間も余裕を与えられ、自分で十分考えたり、調べたりする機会もあったと思われる事を考え合わせると、学生の仮定法に関する文法能力に問題があるのではないかという疑問が生じてくる。ここでその問題点を分析して見たい。
 2. 解答分析 それぞれの問題の関与する動詞句の形式ごとに、仮定法過去形、仮定法過去完了形、混合形、未来形に分けて解答をみると、各問題群の正答の平均は76.5, 61.1, 46.7, 65.5であり高くはない。これらの問題に対する誤答を分析することによって、文法能力の弱い部分または欠けている部分を把握したい。
 - A. 仮定法過去形 これに関する問題中、問12, 9などが正答率が低く6割である。問12に対する誤答の主なものは、If he were(was) honest and trustworthy, If he is (not) honest and trustworthyなどで、条件節中で仮定法過去形が示す「時」および「現実」との関係理解が不十分である。問9については最も多い誤答が stop(s), had stopped, were to stop等で、関係詞節内の動詞の指示する「時」を文脈から判断する能力に問題が見られる。結局動詞句が持つ「時」と「現実」認識に関する能力が未熟であることを示している。
 - B. 仮定法過去完了形 これに関する誤答は問14, 5, 16, 8などに多く見られる。問14については、accompaniedの単純過去形を用いたり、主語にitを立てたり、無解答もあった。これは仮定法自体についての理解が不十分であるばかりでなく、非制限節を含む文構造の理解に問題がある。問5ではwere(was)の解答が圧倒的に多い。Oh! that ... 節内には仮定法の過去形の動詞が入る規則は知っているが、それが指示される「時」によって形を変える規則が内在化されていないと思われる。日本語にはこれに対応する規則がないところからくる難しさとも考えられる。

C. 混合型 問10と4はまったく同種類の問題であるのにも拘わらず、正当率に差が見られる。前者に関する誤答の主なものはwould have been, were(was), followedなどで条件節にthen, 帰結節にnowが入っているのにも拘わらず、この「時」を明示する副詞を手掛かりとして両節の動詞形を正しく判断し兼ねている。文脈を用いて各節の持つ「時」を判断し、それに必要とされる動詞句の形式を表現することに困難が見られる。

問4では誤答の主なものはwould have been, was(were)となっていて、ここでも前と同様に条件節にin those days, 帰結節にnowがあるのにも拘わらず各節に必要なとされる正し動詞句を表現するのに困難を示している。後者の正当率がより低いのは条件節に過去完了形が見られたので、それに対応する形としてwould have beenを選んだ者がより多かったと思われる。過去時を指示する仮定法過去完了の条件節と帰結節内の動詞句の形式がセット化されていてなかなか、各節の指示する異なる「時」に対応出来ない状態と思われる。

D. 仮定法未来形 これに関する問題は問15だけなので資料としては十分ではないが、次の事が分かっている。この問題に対する正当率は65.5で、誤答の主なものはIf he were not come, If it were not for the event of, If he come not, If he would coming, If he had not come, 無解答など多様である。

この事は「条件節に含まれる意味が単なる仮定なのか、万一の事なのか、それとも現在において極めて疑わしい事なのかによって節内に用いられる動詞の形式を決定する」ことに解答者は対応出来なかった事を意味する。

IV. 結論

1. 20問中8問、40%が正当率80以上で出あることは当大学生は仮定法に関する基本的な形式と、それに依って表される意味を理解していることを示している。
2. しかしその一方で、73名、約80%の学生が仮定法について問題を持っている事も事実である。
3. 問題点
 1. 節または文が指示している「時」を文脈から判断して、それに基づいて正しい動詞形を示すことに不確かさがみられる。
 2. 仮定法の動詞の形式とそれが持つ「現実、非現実」または、強い疑惑、不確実性、可能性、非実現性等の意味との有機的結合関係の認識が弱い。
 3. したがって、これらの微妙な意味を表出する法助動詞とそれを含む動詞句を構成する文法力が不足している。
4. 解決策
 1. 仮定法の動詞句が持つ形式と、それが示す「時」、「事実」との関係は直説法の場合と切り離して取り扱い、混同を避ける。
 2. 現実感を持った場面と文脈で、仮定法を含む表現の実用練習を行う。これはむしろ学習の初期の段階で行うのが効果的と思われる。
 3. 仮定法でよく用いられる法助動詞について意味論的指導を加える。
 4. 大学レベルの「英文法」では TENSE, TIME, ASPECT, MOOD などの文法カテゴリーを適切に指導する必要がある。一部の教科書や文法書にこの区別が無いものも見受けられるが、日本語を背景とする者の英文法能力獲得にはむしろこの区別が必要である。

9月15日(金) 研究発表第3室(713)

資料 1.

得点	人数	累積
90 ~ 100	5	5
80 ~ 89	12	17
70 ~ 79	19	36
60 ~ 69	30	66
50 ~ 59	13	79
40 ~ 49	5	84
30 ~ 39	5	89
20 ~ 29	1	90
10 ~ 19	0	90
0 ~ 9	0	90
計	90	90

表1. 得点分布

問	正当率
3	91.1
13	86.7
20	82.2
19	73.3
12	64.4
9	61.1
平均	76.5

表3. 仮定法過去形

問	正当率
18	82.2
17	72.2
14	61.1
5	58.9
16	46.7
8	45.6
平均	61.1

表4. 仮定法過去完了形

順位	問題	正当率
1	3	91.1
2	13	86.7
3	1	85.6
4	7	82.2
5	18	82.2
6	20	82.2
7	11	81.1
8	6	80.0
9	19	73.3
10	17	72.2
11	15	65.5
12	12	64.4
13	2	63.3
14	9	61.1
15	14	61.1
16	5	58.9
17	10	58.9
18	16	46.7
19	8	45.6
20	4	34.4
	平均	68.8

表2. 問題別正当率

問	正当率
10	58.9
4	34.4
平均	46.7

表5. 混合型

資料 2

仮定法に関する文法力テスト問題

問 下線部に留意しつつ和訳よ。

1. A step further, and you would have fallen over the cliff.
2. A community which wished to have its doctoring done efficiently would select for medical training those young people who showed most keenness and aptitude for the work.

問 空所にbeの適当な形を入れよ。

3. () he in his right mind, he would not make such wild statements.
4. If he had been more diligent in those days, he () in comfortable circumstances now.
5. Oh! that I () there at the time.
6. He talked as if he () a man of importance.
7. He talked as if he () abroad a lot of times.

問 カッコ内の動詞の適当な形を示せ。

8. I wonder what he (say) if he had known the fact.
9. A nation which (stop) working would be bankrupt.
10. If I (follow) your advice then, I (be) happier now.

問 空所に適当な語を入れよ。

11. () he known my trouble, no doubt he () () helped me.

問 下線部をif-clauseに直して文を書き換えよ。

12. He is honest and trustworthy, or I would not associate with him.
13. With a little more money, he would be able to buy it.
14. It would have been a pleasure to have accompined you.
15. In the event of his not coming, what would you do?

問 仮定法を用いて、ほぼ同じ意味の文に書き換えよ。

16. His father's illness prevented him from attending the party.
17. I succeeded through your generous assistance.

問 次の文を英訳せよ。

18. 消防自動車もう少し遅ければ、全焼しただろう。
19. 彼はまるで大病をしていたような顔をしている。
20. 彼は私を3才の子供のように扱った。

(勝又永朗、「大学英文法」 pp.157~60)